



一人は皆のために 皆は一人のために

# わだち

福脊連通信

2026.1

No. 223

編集：福岡県脊髄損傷者連合会 〒 820-0303 福岡県嘉麻市中益 879 TEL 090-1346-0093

(公社) 全国脊髄損傷者連合会

## 第 49 回九州ブロック会議福岡県大会



### 大会スローガン

1. せき損センターと連携しピアサポート事業の推進を図ろう
1. どのような重度の障害者でも地域で安心して自立生活できる社会を目指そう

大会終了後、皆で記念写真

昨年の 10 月 25 日、総合せき損センターで九州ブロック会議福岡県大会を無事に開催することができました。

来年度は、50 周年という節目の年になりますが、佐賀県で開催されます。

皆様のご参加をよろしく願いたします。

2026 年新年の挨拶 .....	2 P
第 49 回九州ブロック会議福岡県大会開催の報告 .....	3 P
第 49 回九州ブロック会議福岡県大会、報告 .....	7 P
みなさんとのきずなを強くするために .....	7 P
第 14 回移動円滑化評価会議の報告・編集後記 .....	8 P



# 2026 年新年の挨拶

支部長 大里 恵

みなさま新年明けましておめでとうございます。

昨年は激動の年でした。巳年ということで、よろよろと地を這うようにブロック会議の準備を行っている最中、気がつくとな蛇に身体を締め付けられ、身動き取れず、ブロック会議準備中に腎盂炎で一か月弱入院してしまいました。その間、東さんに迷惑をかけましたが、頼りになるのは会員同士だとあらためて感じました。お陰様で、なんとか第 49 回九州ブロック会議福岡県大会を無事終えることができました。これも参加と協力をいただいた会員皆様のおかげと、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

そんな忙しい日々の中、降ってわいたように全脊連本部の九州ブロック担当理事に白羽の矢が当たり、さらに激動の渦に巻き込まれることになりました。器でない者が上に立つと、なかなか物事がうまくいきません。そして高校生の修学旅行以来、10 月理事会と省庁交渉のために東京行きとなり、新幹線や地下鉄では移動するたびに、インバウンドに翻弄され、ただただ疲れましたが、得るものもたくさんありました。

省庁交渉時は、石破総理が辞任するかどうかとか、永田町がざわついている頃で、現財務大臣片山さつき参議院議員が、そんな忙しい最中に時間を割いて、全脊連の支援のため参加され、名刺交換させていただきました。東京から帰ると全脊連と頸損連の学習会で別府に 1 泊、そしてこの「わだち 223 号」が発行されている頃は長崎県支部開所に向けて、長崎で障害当事者主催の講演会に行く前か、行ったあとだと思いません。

新年早々、馬車馬のように全速力で走りまくっています。今年度九州ブロック会発足 50 周年で

記念行事を、佐賀県大会で行う方向で検討しています。福脊連は今年度第 48 回総会となります。まだ、総会会場も決まっていませんが、今年度はぜひ多くの方に参加していただきたく、いろいろ企画を検討しています。参加が難しい方には Web 中継も行いますので、ぜひ参加をお願いいたします。

最後になりますが、別紙案内の通り福脊連グループ LINE に参加していただくか、メールアドレスを福脊連にお知らせいただきたいと思います。現在、インターネットや SNS による情報を得ることもできますが、全脊連では脊損や頸損にスポットを当てた情報のみ提供しています。また、全脊連も公益法人となり、社会的信用も増し、国の機関やいろんな団体からの重要かつ有益な情報やアンケート調査依頼を受けることが多くなりました。しかし、その有益な情報を会員に即座に伝える方法が、現在グループ LINE かメールしかありません。

現在、グループ LINE では地震や災害による安否確認、本部・国・関係機関や団体からの最新情報やアンケートなどをリアルタイムで流しています。

「わだち」は 3~4 月に 1 回発行、脊損ニュースは毎月発行ですが、いずれもリアルタイムではありません。その意味では会員の皆様に有益な情報をリアルにお伝えできないとは、支部長として心苦しい限りです。ぜひこの機会にグループ LINE に参加かメールアドレスの登録をお願いいたします。個人情報厳守しますので、何卒ご検討のほどよろしくをお願いいたします。

# 第 49 回九州ブロック会議福岡県大会開催の報告

東 聖二

2025 年 10 月 25 日（土）、飯塚市の総合せき損センターで第 49 回九州ブロック会議福岡県大会が対面と Zoom 配信のハイブリッド形式で開催されました。当日は、総合せき損センターの関係者、各支部の参加者など 30 名の参加がありました。

大会前日は、前泊した会員の皆様とホテルの近くにあるイタリアンのお店で親睦会を行いました。大濱代表理事をはじめ各県支部の皆様と久しぶりに交流できる楽しいひとときでした。

大会当日は、オンライン配信の準備の為に 7 時過ぎに会場に到着しました。配信担当者のご協力により無事に準備を終えることが出来ました。

午前中は、総合せき損センターの泌尿器科部長・高橋良輔医師より「脊髄損傷者の排尿管理」、続いて皮膚・排せつケア認定看護師の尾下美保子様より「脊髄損傷者の排便管理」についてご講演をいただきました。

脊髄損傷者にとって排泄の管理は、日々の生活を大きく左右する切実な問題です。今回の講演を通して新たな情報を得ることができ、改めて排泄管理について学び直す貴重な機会となりました。講演後には参加者から多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

個人的にも興味深い内容で、いつの間にか自己流の誤った排泄管理をしていたことに気づかされました。機会があれば、是非、総合せき損センターを受診したいと考えています。

## □脊髄損傷者の排尿管理

最初に、総論としてどのような尿路管理を行っているかについてお話しがありました。

膀胱の圧力が高くなり変形すると腎臓に悪影響を及ぼすため、「膀胱を変形させないように管理していくことが泌尿器科の目標である」との



説明がありました。

続いて、以下の 3 点に絞って説明されました。

- ・自己導尿カテーテルに関する現状
- ・尿失禁の現状
- ・留置カテーテル管理の現状

まず、自己導尿カテーテルについて、次の 3 種類の説明がありました。

消毒液をケースに入れて繰り返し使用する再利用型シリコン製カテーテル、ゼリーを塗って使用する使い捨てのネラトンカテーテル、ゼリーが不要な親水性コーティングカテーテルです。

現時点では、どのカテーテルが尿路感染に最も良いかという明確な答えは出ていないものの、在宅では再利用型シリコン製カテーテルを使用し、外出先では親水性コーティングカテーテルを用いるといった使い分けも良いのではないかと提案されました。

頸髄損傷の方は、少し太目の硬いコシのあるカテーテルが使用されているとのことで、動画を交えて説明されました。

尿失禁については、過活動膀胱の治療薬として、最近では副作用が少なく効果のある薬剤を使用されているとの説明がありました。しかし、このような薬剤を服用しても症状を抑えきれない場合には、ボトックスを膀胱壁内に注射する治療が行われています。

蓄尿期と排尿期の割合については、排尿している時間よりもためている時間が断然多いので

蓄尿期の管理が QOL（生活の質）や健康を確保するためにも非常に大切であると述べられました。

留置カテーテルは、尿道留置と膀胱瘻の2つの方法があります。どちらも長期留置となると尿が濁り細菌も侵入しますが、尿道留置を長年続けると尿道が裂けてしまう可能性があるため、長期管理では膀胱瘻のほうに利点が多いとのことでした。

膀胱瘻を造設し DIB キャップを装着したことで、外出時の不安やストレスがなくなり、尿路感染もみられなくなったという患者さんの紹介もありました。

最後に、尿路管理全体を考えるうえで考慮すべき点として、「尿路管理において最も重要なのは腎臓を守ることですが、QOL も同様に重要です。毎日行わなければならないという観点から、腎臓を守るための最低限のレベルを医者側で配慮しながら、QOL とのバランスをとることが、現状では現実的な対応ではないか」とのお話がありました。

#### □ 脊髄損傷者の排便管理

排便をスムーズに行うためのポイントとして、以下の内容について説明がありました。

- ・エコーを活用した排便管理
- ・排便の薬物療法
- ・逆行性洗腸療法

排便エコーを導入したことで、便の有無を可視化できるようになり、便失禁への不安の軽減などの効果が得られているとのことでした。

薬物療法に関しては、10年前は刺激性下剤が多用され、排便処置も頻繁に行われていました。現在は個々の状態に合わせた薬剤や処置方法が

選択されています。大腸刺激性下剤については、必要最小限にとどめているとの説明がありました。

下剤調整のポイントとしては、便の性状（硬さ・柔らかさ）を見て効果を判断することが重要であり、「出始めの便が硬く、終わりがゆるい便」の場合は、下剤が効きすぎている可能性を意識してほしいとのことでした。

最後に、以下の案内がありました。

- ・脊髄損傷の方を対象とした排便管理ハンドブックを作成し、当院のホームページ上で閲覧できるようにしているの、ぜひ参考にしてほしい。
- ・当院では排泄ケア外来を開設しており、個別の相談にも対応しているため、ご希望の方は受診を検討していただきたい。
- ・受診の際は、まず泌尿器科を受診していただく必要があること、また初回受診時には1週間程度の排便記録を持参していただくと、診察がよりスムーズに進むこと。

排便管理でお困りの方は、ぜひ看護外来も活用してほしいとの呼びかけられました。

午後からは、大濱代表理事の基調報告の後に総会が開催されました。

#### □ 大濱代表理事の基調報告

2018年の学会の疫学調査によると脊髄損傷の発生率は100万人あたり年間49人であり、福岡県ではその約5倍、年間250人程度が発生しています。毎年、約6000人が受傷し、現在の総数は約12～15万人と推計されています。

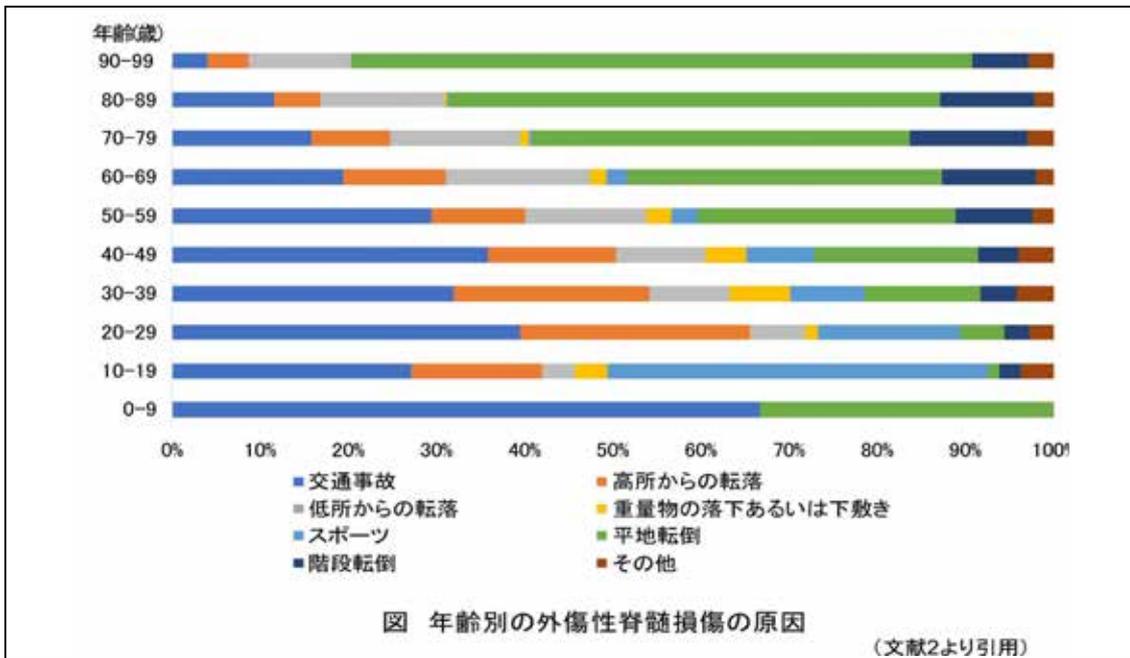
傾向としては、加齢による水平面での転倒が非常に増加しており、全体の38.6%を占めています。一方で、これまで多かった交通事故は減



尾下看護師「脊髄損傷者の排便管理」



大濱代表理事「基調報告」



少し、現在は約 20%となっています。その一方で、スポーツによる事故は 10 代の若者で 43% 増加しているとのことでした。頸髄損傷の発生率は約 88%に達しており、重度の障害を伴う症例が多い現状が示されました。

続いて、総合支援法に関する課題について、以下の点が示されました。

- 入院中の重度者の介護利用については、入院中の病院に介護者が付き添うことのできる制度となっているが、まだ十分に周知・徹底されていないため、適切に利用できるようにしていく必要があること。
- 通勤中の職場内や通学中の学校内での介護については、実現に向けてなお多くの課題があること。
- 介護保険の優先（いわゆる「65 歳問題」）が依然として課題であること。
- 通年かつ長期にわたる外出時における重度訪問介護の利用については、現在は認められていないが、制限は撤廃してもよいのではないかという方向で協議が続けられており、近いうちに解決する可能性もあること。

最後に、再生医療の現状についても説明がありました。慢性期脊髄損傷の治療の展望として、スイス連邦工科大学で行われている、脊椎へのインプラントを埋め込む方法が注目されている

ことが紹介されました。

#### □総会

1号議案 2024年度の支部活動状況報告・2号議案 2025年度の活動計画と今後の取り組み

各県支部からの報告がありました。

沖縄県支部は当事者同士の情報交換や交流をおこなう「ゆんたく」を各地域で開催しています。その他はバリアフリーの推進や広報紙（年4回発行）の発行など多くの事業を行っています。宮崎県支部からは、会員の高齢化と体調悪化により活動が停滞しているというとの報告がありました。大分県支部は、今年は、交流卓球バレー大会を開催し、安全運転講習会も開催予定です。これまで日田市を中心に主に活動してきましたが、今年度からは大分市、豊後大野市などエリアを広げて活動しており、良い結果につながることを期待しているとのことでした。

佐賀県支部は、支部長の体調不良もあり活動が滞っていましたが、体調も回復したため今年度からは、精力的に活動していきたい。来年は佐賀県大会が50周年記念となるため力をいれていきたいという事でした。その他の支部は、議案書の内容をもって報告が承認されました。

3号議案 九州ブロック規約改正

九州ブロック会規約改正案について議論しま

したが、時間の都合上、幹事会において引き続き議論し決定することとなりました。

#### 4号議案 次期九州ブロック会議開催（案）

次期開催県は佐賀県支部で、2026年10月17日に佐賀市内の「ホテルグランデはがくれ」で開催する予定との報告がありました。

#### 5号議案（報告事項 2024年度会計報告・監査報告）

九州ブロック会の会計報告と監査報告が行われました。

#### 6号議案 協議事項

##### 1. 九州各支部における活動強化策について

仲根業務執行理事より以下の提案がありました。「本部の会費が年間1800円になり、会費の改正などについて整理する必要があるのではないか。会費の減額は、入会が増えるチャンスになるため、各支部で推進策をぜひお願いしたい。本部としても会員拡充が何より望ましいのでご努力をお願いしたい。」

また「本部では今年度から『PS25 ピアサポート』の推進ということで強化策を皆さんにお願いしたい。コロナ後、病院との関係が希薄になったところにできるだけ出向く取り組みをお願いしたい。」と呼びかけがありました。

##### 2. 本部への提案事項について

仲根業務執行理事より次のような発言がありました。「本部への要望または政策要望を各支部に活用してほしい。本部では毎年10月初旬に省庁交渉を行っている。9月上旬には九州ブロック、また各県支部から国または地方公共団体に対する要請を取りまとめることを再確認していただきたい。」

また、大里九州ブロック担当理事からは、次のような報告がありました。「今年度、九州ブロック担当理事として省庁交渉に参加した。パーキング・パーミット制度については国土交通省との協議を行い、罰則を設ける方向で検討中との回答を得ており、一定の前進が見られる。本部提案事項の重要性を改めて感じており、来年以降、提案の提出を検討したい。」

##### 3. 2027年度「第22回全国総会」の開催県（九州ブロック担当）について

仲根業務執行理事より、2027年度の全国総会は沖縄県での開催を予定している旨の報告がありました。開催場所や日程など詳細は未定ですが、6月中旬頃を目安に検討が進められており、九州ブロック各支部の承認と賛同のもとで準備を進めていきたいとのことでした。

#### 7号議案 本部提案事項

2027年の全国総会は沖縄での開催予定ですが、来年の総会は札幌で、6月20日～21日の開催が予定されていることから、参加の呼びかけがありました。

また、報告事項として、大分県支部内に新たに「別府支部」を設置したい旨の提案がありました。

すべての議案が承認され、最後にスローガンを全員で唱和して議事を終了しました。

#### □さいごに

今回は、全国でも数少ない脊髄損傷の専門病院である総合せき損センターで開催できたことに大きな意義があったと感じています。今後も、総合せき損センターとの連携をさらに深め、ピアサポート活動の充実につなげていきたいと考えています。

開催にあたり、講師の先生方のご紹介をはじめ、講演会の院内周知、会場のご提供など、準備段階から多大なご協力をいただきました総合せき損センターの関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

ご参加いただいた皆様、大会運営にご協力いただいた多くの関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

来年度は佐賀県での開催となります。多くの皆様のご参加を、どうぞよろしくお願いたします。

# 第49回九州ブロック会議福岡県大会、報告

児玉 良介

2025年の第49回九州ブロック会議福岡県大会は、10月25日、福岡県飯塚市にある総合せき損センター、多目的ホールにて開催されました。

総合せき損センターは、せき髄損傷者を専門に治療する病院で、全国脊髄損傷者連合会、福岡県支部には、この病院に受診の経験のある会員が大勢在籍しています。かくいう私、児玉も、過去に何度かせき損センターに入院したことがあります。

当日は、泌尿器科部長の高橋良輔医師から、「脊髄損傷者の排尿管理」というテーマで、また、同じく泌尿器科の尾下美保子看護師から、「脊髄損傷者の排便管理」というテーマで、ご講演をいただきました。2つとも非常に中身の濃い内容で、参加者から多くの質問が上がっていました。

私自身、尾下看護師の排便管理のお話は非常に興味深く、実のところこの講演の2週間ほど

後に、泌尿器科に受診し、排便管理の相談にのってもらいました。

講演後は、昼食をはさみ、全国脊髄損傷者連合会、大濱眞代表理事の基調報告があり、その後、支部の活動報告や今後の計画、取り組みについての話がありました。参加者としては、沖縄、熊本、大分、佐賀といった地域からの参加がありました。

この報告文は、12月30日に書いているのですが、大濱代表理事の訃報は昨日お聞きました。最後にお会いしたのが、この九州ブロック会議福岡県大会ということになってしまいました。大濱代表理事は、様々な障害者に関する制度改正に多大な貢献をされた方です。ほんとうにエネルギーが豊富な方で、お会いするたびに、その姿を見て勇気づけられていました。障害を持った仲間の死は、決して珍しいものではありませんが、それでもやはり、とても残念な気持ちです。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## みなさんとのきずなを強くするために

堀合 信行

会員の皆様が日常のできごとを共有するツールとしてLINEやメールを使いませんか  
例えば、悩み事や相談事・うれしかったこと・感激したことを投稿したり、  
さまざまな活動をタイムリーに共有することもできます  
3つの方法で情報共有することができます

Lineの  
QRコード



メール fukusekiren-kasuga@cello.ocn.ne.jp  
SMS 090-1346-0093



# 第14回移動円滑化評価会議の報告

東 聖二

国土交通省の第14回移動円滑化評価会議が9月17日にオンラインで開催されました。当会は、同会議の下部組織である九州分科会の構成団体として、オンラインで傍聴しましたので報告します。

この会議は、障害者団体、学識経験者、自治体などで構成され、バリアフリーの進捗状況を把握・評価するために年2回開催されています。今回は、次の4点が議題となりました。

1. 13回議での主な意見と国土交通省等の対応状況
2. 国土交通省等におけるバリアフリー関連の取組事例
3. 当事者参画の取組事例の紹介
4. その他

当事者参画の事例として、近畿地方整備局から大阪・関西万博日本館の建設におけるユニバーサルデザイン・ワークショップが紹介されました。基本設計段階から障害当事者や学識経験者が参加し、設計だけでなく施工段階でもワークショップを実施。実物大モデルを製作して参加者に試してもらい、その結果を施工に反映したとの報告がありました。

小規模店舗のバリアフリー化は、整備義務や明確な基準がないため、段差が残ったり椅子が固定されていたりするなど、従来から課題となってきました。今回、住宅局からテナントの事例が示され、小規模店舗のバリアフリー化に向けた実効性のある対策を検討するため、実態調査を進めているとの報告がありました。今後、この分野の改善には障害者団体からの働きかけが一層重要になると考えられます。

質疑応答では、多くの当事者意見が出されました。新幹線・特急のWEB予約については、各社が取り組みを進めているものの、介助者と車椅子使用者を同時に予約できない、障害者割引乗車券

のウェブ決済ができない、窓口では手続きに時間がかかるなど、依然として不十分だと指摘されました。

無人駅の問題については、「人による支えこそが最大のバリアフリーである」として、無人化の流れに懸念が示されました。また、障害者権利条約が掲げる「他の者との平等を基礎として」という視点を重視して欲しいと訴えられました。

全脊連からは、「1つの駅に1カ所であれば、電車とホームの間・段差がない位置を設けてほしい」との要望を出しているが、十分に進んでいないので早急な対応を求める意見が出されました。

## 編集後記

昨年は皆様のご支援のもと、九州ブロック会議福岡県大会を無事に開催することができました。その大会でお会いしたのが、大濱代表理事との最後となってしまいました。年末の突然の訃報に接し、大変驚きました。

大濱様は長年にわたり、日本の障害者運動を牽引され、積極的な政策提言で当事者の声を国政に届けられました。また、全脊連の組織強化にも多大な貢献をされました。福岡で全国大会が開催された際にもご心配くださり、わざわざ県総会にまでお越しいただき応援していただきました。温かいお人柄と行動力で私たちを支えてくださいました。

心よりご冥福をお祈りいたします。

寒い日が続きますが、皆様、お体を大切にお過ごしください。本年もよろしく願っています。  
(H)